

夏の日差しをさえぎる自然のカーテン

みどりのカーテンを作いませんか？



ここではゴーヤの作り方を紹介します。

4月

1

園芸用の土を用意する

30cmほどの深さがあるプランターに、底がかくれるくらいの石を敷き詰め、土をほぐしながら、ふんわりと入れます。

2

種の準備をする

種の外皮は硬くて水が浸透しにくいので、2時間ほど水に浸します。ビニールポットに数粒ずつ、種を巻いた上に約1cm厚さに土をかぶせて水をやります。

5月

3

プランターに移す

芽が出て本葉が2~3枚出てきたら、元気のないものは間引きします。ポットの底から根が出てきたら、根を傷つけないように20cm間隔で土ごとプランターに植え替えます。

6月

4

誘引する

つるはやわらかいので、丁寧に広げるようにして、うまくネットにからめます。本葉が5~6枚出てきたら、一番太い茎の先端を2~3cm切る(摘芯)ことで、つるが元気に成長します。

7月~

5

肥料をあたえる

花が咲いて実がなる頃から1か月に一度肥料(固形)をあたえるとよいでしょう。(液体肥料は一週間に1回が目安です。)

ゴーヤやアサガオ以外にも取り組んでみたい みどりのカーテン植物



ハチマ



アピオス



アカザカスラ



ツルムラサキ



オキナワスズメウリ



ハヤトウリ



カラハナソウ

クールセンター八王子(八王子市地球温暖化防止活動推進センター) 〒192-0906 八王子市北野町 596-3 あったかホール 2 階

☎ 042-656-3103 📠 042-649-2118

✉ zerocarbon@coolcenter802.net



<https://coolcenter802.net/>



用意するもの：栽培容器と土/種または苗/カーテン支柱・ネット/肥料等

プランター栽培の場合

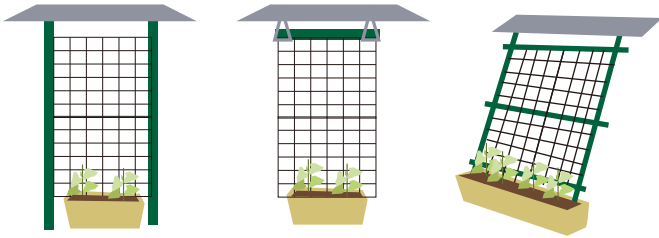
40ℓ以上の深型プランターを選ぶ
(丸型の素焼き植木鉢ももちろん可)
・1~2株/40ℓが植栽可能
用土は赤玉土や畑土に腐葉土を混ぜたもの、ブレンドされた市販の培養土を用いてもよい。



地植えの場合

軒先やテラスの先などカーテン設置先を選び、深さ20~30cmほど掘り返して石などを取り除く。
完熟腐葉土を2kg/1㎡と、適量の緩効性肥料などを混ぜ込んでおく。

支柱のいろいろ



つっぱり棒型

吊り下げ型

立てかけ型

ネット選びのポイント

- 幅は90cm単位、設置場所に依りて決める。
- つる自体がネットに巻き付くものは角目を選ぶ
- 果実が垂れるものは目合い15cm以上のものを選ぶ
- 素材はプラスチック製、麻ひもがあるが、栽培後につると一緒に土に返すことのできる天然素材がベスト

種まき：4月中旬から6月まで



水に浸す



1.5cmの穴を2か所あける



平らな面を下にして蒔く



種に土をかける



しっかり水やりをし、日当たりの良いところに置く

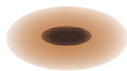


本葉2枚までに間引きをする

苗の植え付け：5月上旬~6月中旬



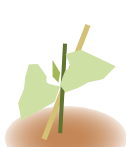
植え付け前に水に浸け、植え付け前までに水切りをしておく



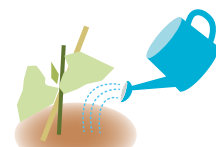
植穴をあける



鉢を外して植え付ける



仮の支柱にしばる

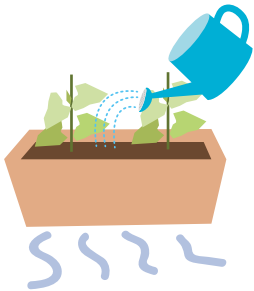


たっぷり水をやる



30ℓで1株
40ℓで2株

水やり



植え付けから数日後、土が白っぽく乾いたら、底穴から水が流れ出てくるまで水をやる。

摘芯と誘引 1

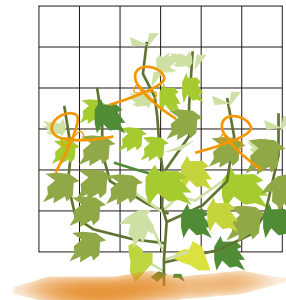


親づるの先を摘む

元気のよい子づるを残す



摘芯と誘引 2



ひもでネットや支柱に結びつける。ネット上からはみ出したつるはカットする。

追肥

プランター栽培には即効性の液体肥料が便利。つるばかり伸びない窒素が控えめな肥料が最適。週一回程度水やり代わりに施すと効果的。

結実・収穫



果実が品種特有の大きさになったら、早めに収穫。

片づけ：花は咲き続け、果実は10月くらいまで付きますが、残暑がやわらいで日差しがほしくなったら片づけましょう。根元の茎を切って葉がしおれたら引っ張ってはがし、ネットと分別して処分します。